76回生インターンシップ

11月14日(月)～18日(金)の5日間、本校の2年生246名がインターンシップを行った。訪問先は83の企業・団体。私も2年生としてインターンシップに参加し、自衛隊にお世話になった。私はこの五日間、自衛隊の実動部隊にもお世話になった。挨拶やだけでなく、様々な人たちの日々の規律に関して姫工で日常的に行っていることが役に立ち、この知識は社会でも役立つと実感することができた。印象に残っていること は教練をともに行った隊員からの「何事にも全力で。だし無理だけはするな。」という言葉だ。自衛隊の中の活動は、体を使って行うものが多く、手を抜いてしまうと怪我をするし、無理をしても怪我をする。このことは学校の実習で教わっていると似ていると感じた。今後の実習には、より真剣に取り組もうと思う。（2R　片山）

姫工新聞

発行所
兵庫県立姫路工業高等学校
姫路市伊伝居600番地1
(079) 284-0111
編集発行
新聞部
編集責任者　片山　仁

芸術鑑賞会

劇団ステージタイガー「クロス×シーン」

12月14日(水)に姫路市民会館にて芸術鑑賞会が行われた。関西で活躍する劇団ステージタイガーさんの舞台を鑑賞した。中学生から30代、50代と3つの時代を描き、各キャストの皆さんが一人一役で演じられた。劇団員の方々が魅せる熱量に圧倒されたほか、お芝居を通して、「人生の岐路とは何か」を考えさせられた。さて芸術鑑賞会終了後、私たち新聞部は、脚本・演出の虎本剛さんと団員の方々を取材し、はじめに人生の分岐点について尋ねると、虎本さんは「進路を考える時だった。」と仰った。高校3年間進学校に通っていた虎本さんは、毎日勉強漬けの生活で、情熱を注いだものややりたいことがこれと言ってなく3年生の大学を選択する際も、特段行きたい学校はないという状態だった。しかし、このままでは駄目だと思い、心の内にある自身の感情を外に出そうと、音楽や演劇について学べる大学に進んだ。演劇は当時の仲間に誘われたことから演劇を始め、現在に至る。高校時代のお話は意外だったが「演劇との出会い」がご自身にとっての大きな変化と伺い心動かされた。また演出舞台の登場人物について考える際に心がけていることは、「丁寧な取材と下調べ」だそうだ。場所、人物をしっかりと調べてからセリフに不自然なところがないかどうかなどを、チェックしていく。これは、虎本さんがお世話になった師匠さんから教わり、その教えを今でも守り続けているそうだ。虎本さん自身「作品の中では、誰も殺さず、病気にもならない生きようとする人たちを描く感動の物語をつくる。そういったこだわりを持って取り組んでいる」とのこと。実際の舞台からそれが感じられた方も多いのではないではないだろうか。また虎本さん、団員の方に、「苦しみの乗り越え方」について質問すると、「しんどいところから立ち上がっていく姿がかっこい。」「人生を重ねるうちに頑張るところと頑張れないところが出てくる。あかん時はあかんと言ってあげることも大事にしてほしい。」と仰っていた。最後に高校生に向けてメッセージを頂いた。「自分自身を好きになり、自己肯定感を高めることが大事。自分を大切にし、過去も未来も肯定できる自分になってほしい。」とても心に残る言葉であり、これからも自分自身を大切にしていきたいと思った。今回取材を通して、演劇の舞台や人生における大切なことを教えていただいた。そして、虎本さんの演出家としての思いまで深く知ることができた。これからも素晴らしい演劇をつくり続けていただきたい。（3D　山田）

▶クロス×シーンチラシ

▲インタビュー風景

ロボコン小学生大会 SAWAカップ

2月5日(日)本校241教室において、第2回SAWAカップロボコン小学生大会が行われた。参加者は近隣の小学生4～6年生十数名。事前にM科R科の生徒によるマシン作成の工作教室が行われ、当日にはW科の生徒も加わって大会運営がなされた。

競技内容は、マシンに搭載された2個のモーターを操作し、段を越え登り、旗を倒すというもの。曲がれない直進タイプや十字車輪型、恐竜を模したものなど、小学生がそれぞれ工夫したマシンが会場を沸かした。予選タイムレース後行われたのは、同時に2台がスタートし、先に旗を倒した方が勝ちという決勝トーナメント。なかなかストレートに旗を倒せず、相手の様子に焦りながら、操作に苦戦する様子は、見ているこちらも手に汗握る白熱した試合だった。

▶ロボコン小学生大会の様子

ごーごーしんぶんぶ

2月8日(水)～12日(日)まで、イーグレひめじ地下1階の市民ギャラリーにおいてD科の作品展が行われた。3年生が中心となって行われる作品展であるが、全学年の作品や課題が展示され、1・2年生も搬入・搬出時には会場に入って作業を手伝うのだそうだ。昨年はコロナ禍のため規模を縮小して行われたが、今回は以前と同じ規模であり、地下の広い会場全体が、全て生徒の作品で埋まっている光景は、圧巻の一言に尽きた。

▲デザイン科作品展会場の様子

R科の生徒である私は、初めて作品展に足を運んだが、作品の多さに加え、種類の多さにも驚かされた。メインとなる3年生の卒業制作では、おのおのB1パネルを3枚分描くのだそうだ。今回のテーマは「ありがとう」だったが、制作されたどの作品も一人ひとりの個性が出ており作品の幅の広さに驚いた。延べ千人近くの方が会場を訪れたというのも納得である。今年機会がなかった姫工生も来年はぜひ鑑賞することをお勧めする。（2R　片山）

▶3年生の先生方を使ったポスター

沈思黙工

3年生の先輩方の姿を見ることも、少なくなってしまいました。いよいよ卒業式ですね。先輩方が卒業されるのは、とても寂しいですが、次は先輩達の代わりに、私たち2年生が最上級生として後輩に見習われるような存在になりたいと思います。▼2月9日に、1・2年生は姫路城の周囲を駆け巡るマラソン大会を行いました。先生や地域の方々の温かい声援のもと、全員が一生懸命走りきることができました。当日私は残念ながら見学でしたが、みんなが頑張って走っている姿を見て感動しました。ゴール地点でゴールする姿をカメラに収めていると、皆走り終えた時には、達成感溢れる笑顔ですごく輝いていたのです。▼これまでの3年間、コロナウイルスの影響で大会が開催されていなかったことを知り、とても驚きました。今後はたくさんの学校行事が以前のように、実施されることを願っています。（2D　福岡）

▶マラソン大会の様子

▶姫路城の周囲を駆け巡る

（参考）M機械　E電気　C工業化学　Dデザイン　W溶接　R電子機械